

けいあい

第 5 号

平成20年5月19日
甲斐市立 敷島中学校
発行責任者 長田和人

平成20年度前期の「生徒総会」が開かれました！

5月15日(木)、全校の生徒が参加して平成20年度前期の生徒総会が開かれました。この生徒総会は、平成20年度前期の生徒の活動について生徒たちが自主的に話し合う会で、本校では5月と後期12月(予定)の2回開かれます。今回は、本年度の生徒会(部活動・委員会を含む)の活動方針を話し合う会であった訳ですが、大変活発に話し合いが行われました。この結果次のような活動スローガンを決定し、みんなで「素晴らしい学校づくり」に取り組むことを確認しました。生徒たちの自主的な活動を大切にしながら、私たち教職員は全員でこの活動を支えていきたいと思えます。



◎ 「生徒会」本年度活動スローガン

「みっくすじゅーす」

(テーマ設定の理由)

今年度のスローガンである「みっくすじゅーす」のジュースには100%という意味があります。ジュースとは、果汁が100%のものを指します。皆さん一人ひとりが果実となり、一つ一つの活動を精一杯努力することで、それは果汁100%のジュースになります。そしてたくさんの活動をこなしていくことで一つの味ではないブレンドされた数中オリジナルの「みっくすじゅーす」を作ることが出来るのです。スローガンの文字もそんな数中オリジナルをより強調するように、一つ一つの活動を100%で取り組んで欲しいという思いを込め、ひらがなにしました。ジュースにするためには100%であることが必要です。全ての活動が100%になるように一緒に頑張りましょう。そして、皆さんの力で、他にはない味の私達の「みっくすじゅーす」を作り上げていきましょう。
…… 生徒会の提案より ……

(平成20年度生徒会活動の柱)

① 団結100%

様々な活動を発展させ、より良いものにできるよう、全員が心を一つにした時の100%の力にこだわり頑張っていきましょう。

② エコクリン100%

エコクリンとは、エコロジー(自然環境保護運動)とクリーニング(きれいにする)とを合わせた言葉です。これらの“活動”に取り組むことにより、地球をきれいにしていく心がけの第一歩にしていきましょう。

③ ルール100%

ルールというのは、守ってこそルールになります。一人ひとりの生徒が意識してルールを守り、気持ちの良い学校生活を送れるようにしましょう。

④ 笑顔100%

笑顔というのはうれしい時に自然に出てくるものです。みんなで何かを達成した時、気持ちよく挨拶を交わした時等に笑顔は自然に出てきます。笑顔で明るく過ごしていれば自然と学校全体が明るくなるのです。敷中生一人ひとりが笑顔100%で、学校全体が明るくなるようにしましょう。「サンスマ運動」=サンキュウ、スマイル運動
…… 生徒会の提案より ……

平成20年度前期の学級役員が決まりました！

平成20年度前期学級役員が決定いたしました。5月2日(金)音楽鑑賞会の後任命式を行い、私から本年度前期の学級役員さん達に任命書を渡しました。前号でもご紹介いたしました、5月の末に行われる1・2年生の校外学習や生徒会主催の有価物回収・鍛錬・年輪祭・合唱活動等の取り組みもこの学級役員さん達が中心になって企画・運営していきます。さらに、このメンバーが学年の生徒会も運営していくのです。大いに“苦勞”し、その苦勞が自分自身を成長させることにもなりますので、頑張ってください。

※ 学級役員名簿を裏面に掲載いたしました。

平成20年度前期の学級役員です！



学年	学級	会 長	副 会 長
一 年	1組	保坂 康介	小林 匠 上田 結里菜
	2組	清水 壮	小島 一樹 中込 祐佳
	3組	本間 努	鬼山 直也 阿部 唯加
	4組	名取 優斗	広瀬 雅人 栗林 綾園
	5組	山口 直也	横小路 裕也 小宮山 香奈
	6組	荻野 優	保延 宏明 高野 雅子
二 年	1組	河端 大将	内藤 滉貴 志渡澤 侑美
	2組	保坂 浩平	星 和樹 中田 万智子
	3組	川崎 麻子	廣川 大成 山本 彩加
	4組	深澤 慎介	神原 友 保坂 有紀
三 年	1組	橋爪 優	小河原 涉 古屋 早紀
	2組	瀧澤隆太郎	長谷部 新 窪田 真子
	3組	長田 京真	八代 耀 三村 美彩
	4組	天野早也佳	岩瀬 仁太 剣持 英理紗

(頑 張 っ て 下 さ い ネ !)

◎学力低下のもたらすものとは!?

(前号からの続き)



子どもの立場で「学力低下」とはどんな意味を持つのだろうかと考えた時、子ども達には何をもたらすのだろうか？ = 私は、子ども達にきっと「自信の喪失」をもたらすと考えます。「学力低下」は、物事を論理的に考える能力とか、総合的に考える能力を育成しないばかりでなく、「自分はダメなんじゃないか」という劣等感を抱かせる非常に深刻な“負”の作用があるのです。そうならないように、子どもに色々なことをしっかりと教えて、本も読ませ、物事の道理が分かるように教育してやれば、自ずと人間の良い面が引き出されてくるはずで、「自分はちゃんとやっている」という自信が持てる子どもは、むやみやたらに他人をいじめたりしません。自分に対してネガティブな評価をしている子どもは他人に対してもネガティブな評価をしがちで、それがいじめにも繋がっていくのです。陰山英男先生（現立命館小学校副校長。「百マス計算」などの教育実践で知られる）は、「子どもの学力が上がるごとに、子どもが上品になっていく。」とおっしゃっています。品が良いということは、心が美しく、優しいということと同義なのです。意地悪しない、人が見ていないからといって悪いことをしない、卑怯なことをしない、ということでしょう。学力が上がることによって、自分はちゃんとやっている。という自分に対する「尊敬」の気持ちが生まれるから、そうなるのだらうと思います。「学力を上げて品のある子どもを育てる。」のは、何も特別なことではありません。家庭では生活態度を確立させ、学校では集中して授業を受け、休み時間には遊び、給食をしっかり食べて、また集中して勉強し遊んで、家に帰ったら宿題をし、しっかりとご飯を食べて早く寝る。という生活のリズムづくりから、健康で素直な子どもが生まれるのだと思います。「子どもの人としての基本」は、規則正しい生活の中でつくられていくのです。

前号でもお話ししてきましたが、子どもの学力を上げるのには、まず「基本を教えること」です。それがあれば、子どもの能力はどんどん伸びていくはずで。

学校の教師も“教える立場”なのですから、子ども達を「導く者」「尊敬されるべき者」としての自覚を持ち、教師としての技術を磨き（研修・授業公開や研究授業を通して）、子ども達のために一生懸命努力できる「良い教師」を育てる環境づくり・仕組み作りに、私たちが“全力”を尽くしていきます。